

真田地域協議会 会議概要

1	審議会名	第10回真田地域協議会
2	日 時	令和6年1月23日(火) 午後7時00分から午後8時00分まで
3	会 場	真田地域自治センター3階 講堂
4	出席者	荒木克子 委員、木島徳行 委員、澁澤春代 委員、清水由香 委員、関口俊行 委員、田畑和秀 委員、中村守 委員、廣瀬しず江 委員、堀内和子 委員、堀内靖子 委員、丸山美奈子 委員、皆川克彦 委員、宮島淳 委員、柳沢泉 委員、柳沢芳明 委員
5	市側出席者	小須田学校保健給食課長、浅野課長補佐兼学校保健給食係長 田中地域自治センター長、羽毛田地域自治センター次長兼地域振興課長、半田市民サービス課長、小林産業観光課長、田中真田地域建設課長、松木教育事務所長、山浦真田消防署長 宮島課長補佐兼地域政策担当係長、櫻井主査、坂井主事、望月主査

協 議 事 項 等

1 開会（中村副会長進行）

2 会長あいさつ

3 センター長あいさつ

4 協議事項

地域振興事業基金の活用について

事務局から地域振興事業基金の概要について

各担当課から基金活用事業の説明

- ・学校保健給食課
- ・真田地域振興課
- ・真田産業観光課
- ・質疑
- ・ダボスとの国際交流について

【委員】ダボスの関係だが、このような小さな地域でもダボスとのかかわりなど、若い方々への国際交流の機会はとてもいいと思うが、一点事業費のところでは旅費について自分もあまり海外旅行の知見がないのでネットで調べてきた。エコノミークラスだと7月の金額で25万円という金額だったので現在提示されている金額の内訳などを知りたい。またこのような歴史のある素晴らしい機会でのイベントなので、ぜひ地域の皆さんに事業の理解と背景を知っていただくための情報提供についてどのような考えを持っているのか教えていただきたい。

【地域政策担当係長】ダボス交流の見積を徴取する中で、（席については）プレミアムエコノミーというご提案をいただいている。航空券については53万円余の価格である。いただいた中での最低価格の料金である。また、広報等については歴史ある国際交流である一方、課長からも説明させていただいた近年の交流の停滞期という事情があり、今回を契機に地元菅平の皆さんと力を合わせ、スキー場開設100周年と併せ、周知広報等にも力を入れていきたい。また子どもたちにも関わっていただきたいという想い、現地の生活や食を知る機会などを通じた関心の高まりを作っていければという思いを、今後の実行委員会等の設置など事業の内容の検討を進めて行きたいと考えている。

【委員】自分が調べたところの旅費との乖離があるが、自分もあまり詳しくないので何とも言えないのだが、それを市民の方はどう思うのかという点は疑問が残る。広報の方法についても、知らせるだけだと受け身になってしまい、できれば報告会なども小中学生を交えてイベント的に行うなど、今後50周年が待っているということなのでそちら（のイベント）に人があつまるといった広報に力を入れていただければと思う。親善というのは次につながるということが重要だと思う。そのような点に力を入れていただきたい。

【地域振興課長】貴重な意見をありがたく、是非参考にさせていただきたく思う。

【委員】国際交流の事業はどこの世界にもあることだし良いことだと思う。ただ、今回事業費が全額基金だということだ。先ほどの資料の中で平成23年に一度ダボスに行っていると思う。その時も全額基金だったのか。もちろん経過で真田町とダボス町の国際交流ということで真田町が主体というようだが、やはり市長も行くということになると上田市全体を巻き込んでの話だと思う。真田地域の基金全額で実施する事業というのはいかがなものかと思う。事業からすると上田市で半分ぐらい出すというものだと思うが。

【地域振興課長】前回の国際交流については、基金を取り崩さず実施されたということだ。今回については昨今の財政事情により一般会計からの事業化が困難であり、例えば丸子地域などでも基金を取り崩して事業実施した経過などもあることから、基金取り崩しによる一早い事業化により、次につなげていきたいと考えている。

【委員】やはり先ほど委員からの指摘があったが、ただ行って帰ってきてというだけではなく、これだけのお金を使うのだから、子どもたちなり将来に何か誇りを持てる結果を残していただきたい。

【地域振興課長】ただいまの御意見に沿う事業にしていきたいと思う。

【委員】様々な事情があると思うが、基金の取り崩しに対しては場当たりの対応に感じる。上田市の国際交流は他にもあると思うが、中身が異なると思う。中国との交流事業などはかなり民間交流があると思う。50周年を迎えるという事業に向けての関係性づくりだと思うが、あくまでも地域に限定した事業や50周年式典ならまだしも、単なる関係性づくりに地域の基金全額で実施するというのはおかしいと思う。これはあくまで意見だが、この事業は一般会計で実施すべきである。

【委員】前回是一般会計で行って今回は財源がないから基金を使うというのは変な話だと思う。まして市長さんに行ってもらって市として行う事業なのだから、市として出してもらった方がいいと思う。地域の給食備品を買うのとはわけが違う事業だと思うので、しっかりと基金を充てる事業だとわかってもらわなければ地域の皆さんからは納得できないという声はたくさん出てくるだろう。もし事業を実施されるときはきちっと計画を立てて、帰ってからも報告までしてもらわないといけないと思う。

【委員】事前にこういうことをしてくるということは公表してほしい。(事後で)行ってきましたこうでした、ではなく、事前にこのような計画で実施するということで皆さんにも示していただくべきだと思う。行って何をしてくるのかという部分が自分もまだ納得できない部分があるので、それらをはっきりしてから事業に進んでほしい。

【センター長】次長から説明もあったが今回は50周年記念事業に向けたスイスとの関係構築ということが大きな目標である。10年前の交流事業以降からスイスとの交流事業が停滞している。スイスと菅平高原の交流を深めていけるような事業にしていきたい。今回は市長を先頭に姉妹都市の交流事業の発展を加味して行ってまいりたいと思う。また行く前に報告会をという点については、広報等についてこのような事業を実施していきたいということを周知していくとともに、地元菅平高原の皆さんとどのような形で姉妹都市交流を発展させていきたいかという内容を、行政だけでなく菅平の皆さんをさらに巻き込んで意見を交わしながら事業を検討していきたいので、ただ今の御意見を加味して事業を進めてまいりたいと思う。

・真田地域の自校給食に関する備品購入について

【委員】説明を聞いて違和感があったのだが、(基金で購入する事業が)給食の備品だからなのか、真田地域の小学校の備品だからなのか、またほかの備品も含めた小学校だからなのか。小学校というのは上田市立小学校なわけで、真田町のものではなく市全体の施設ということだと思う。これからも備品購入の度に基金取り崩しながら行うのか。それは違うのではと思う。特別ななぜこの事業をあえてこの場に持ってきたのか、何か意図があるのか、そのあたりをきちっと説明していただければOKは出せないと思う。

【学校保健給食課長】 今回の学校給食備品については、真田地域については自校給食ということであり、各学校に給食施設があり、その機材備品等を活用しながら給食を提供している。上田地域については、学校給食センターからの提供ということになる。武石地域も自校給食ということになる。真田地域の自校給食を今後も進めて行く中で、その対象地域の給食備品ということで基金の活用をさせていただければと考えている。備品についてはそれぞれ年度について(更新が)出てくるものを基金で(更新していく)ということではないが、今回については基金でお願いできればと思う。

【委員】 設備も改修する、新しくするという事は何の問題もなくその通りだと思うが、今の話を聞いていると真田町が自校給食をやっているから基金で払えという事だと思う。自校給食をやっていることに對して設備の更新は基金で払えという事であるのなら真田地域協議会の委員としては皆さんに納得いただけるような説明ができないと思うが。

【学校保健給食課長】 今後も基金を使っていくという事については想定しているわけではないが、今回の二つの備品については基金を活用し給食の提供に役立てていきたいと思う。今後の真田地域の子どもたちへの給食提供の備品という事で基金活用事業としてよいのではないかとということでご提案させていただいた。今回使ったから今後も基金を使ってという事ではなく、その時々協議をさせていただく事になると思う。

【委員】 産業観光課の基金の取り崩し案で、真田まつりや企画展など、具体的に何をやるのかが見えていないが積算の根拠は何か。

【産業観光課長】 基金取り崩しの具体的な内容について、まず菅平湿原の木橋については、17ある木橋の第15番目の橋の補強工事である。現在ヒューム管の上に応急的に補強を行って、橋を載せている状態で危険がある。菅平湿原は多くの陸上競技選手のランニングコースとして利用も多いことから、早急に対応していきたいと考えている。また、真田まつりについては地域の子どもたちが地域の思い出に残るようなお祭りとなるようなことを実施していきたいが、いずれにせよ実行委員会においてそれら具体的な内容を検討していただく事になっている。また、企画展については、没後450年という事から信綱・昌輝の歴史を紐解く企画展としたり、山家神社や信綱寺から歴史的価値のある収蔵品の借用に係る経費として運搬なども含めた見積書から今回の金額としている。

【委員】 真田まつりのイベントに100万円の基金が使われるという事で今回記念事業という事だが、費用対効果がしっかり見えてこなければ次の50周年にもつながっていかない話だと思う。あの時やってよかったと思えるような基金の使われ方については十分に検討していただきたいと思う。

【産業観光課長】 真田まつりの実行委員については、こちら地域協議会の委員の会長や自治連会長さんにも御出席いただく事になっている。今回お出しいただいた内容に沿って、実行委員会においても検討していきたいと思っている。

【委員】 なににしても基金の当て方というのが場当たりに感じる。本来基金の充てる対象や過去の経過も資料に乗っているが、今回は財政的な状況もあるのだろうが基金ありきで使途を決めているようにも見える。

【センター長】 もちろん、本日お出しした案件はもともと基金取り崩しありきで進めてきたものではなく、一般財源で実施するよう予算要求をしてきた。しかしながら現在の市の財政的な面から、財政課から基金を活用したらどうかという提案もあったことから今回協議させていただくもの。我々としても地域に必要な事業と考える一方、予算をつけることに時間がかかってしまっは間に合わない事業、一つでも早く進めていく必要性のある事業については基金取り崩しをお願いするものであることを御理解いただければと思う。

【委員】 現在の市の財政状況については全てを知るわけではないが、財政課にここに来てもらって話してもらうことはできないのか。これから何でも地域の事業が基金取り崩しというのは困る。

【委員】 今回のこの協議内容は、協議会として否決というものはしないのか。できるものなのか。

【会長】 この協議の場では否決という事はできない。ただ意見を言うことができるのでお願いした。

【地域政策担当係長】 冒頭でも申し上げたが、本協議は自治センター条例第7条の地域の重要事項の決定についてはあらかじめ地域協議会に意見を聞くものとするということからご意見をいただいた。今回皆様から頂いた貴重なご意見を、事業の中に反映させられるよう検討を進めてまいりたいので御理解いただければと思う。

【会長】 今回様々な意見が出たと思うので是非今後の検討に生かしていただければと思う。

5 報告・確認事項

- ・ 次回地域協議会日程 令和6年2月27日(火)

6 閉会